

「授業時間配分の工夫と叱るについて」 [県立K高等学校 数学] 氏名：N. H

授業の時間配分については、教育実習中最も課題に感じていた事です。授業で説明が長引いてしまい、予定していた所まで進めることが出来ないことがよくありました。定義や性質を説明するだけで授業が終わってしまうことがあり、それはやってはいけない事だと指導教員に言われました。定義や性質を利用して問題を解く所まで進めないと学んだ事が身に付きません。だから、授業で演習の時間を必ずとることが重要です。そのためにも、工夫が必要だと感じました。

教育実習中、いろいろな先生の授業を見学させていただき、時間配分に関する様々な工夫を知る事が出来ました。まず一つ目に、授業の最初に前回の授業内容に関する小テストを10分行い、その間に板書するという事です。それによって、板書する時間が省略出来て、同時に生徒の理解度を知る事も出来ます。小テストが終わった後、生徒はすぐに板書を写していくので、スムーズに授業に入る事が出来ます。また、小テストを毎回行う事によって、生徒はしっかりと授業を聞いてくれます。二つ目に、プリントを教材として使うことです。私が、教育実習で担当した単元は、2次関数です。この単元では、グラフを描く作業に多くの時間を費やします。指導教員のアドバイスもあり、プリントを教材として使う事にしました。二次関数のグラフの性質などの重要な事は穴埋めにしたり、方眼紙を使ってグラフを書きやすくしたり、プリント作成にも多くの工夫を取り入れました。プリントを使う事によって、生徒が板書を写す時間を大幅に省略出来るので、説明に多くの時間を費やす事が出来ます。しかし、あまり生徒の作業を省略しすぎると生徒が退屈してしまうので、そこは注意すべきだと思います。また、プリントを使用する時は、あらかじめ仕分けし素早く配れるようにしておく事も重要です。授業準備には時間がかかりましたが、その分授業はスムーズに進める事が出来ました。

授業は50分しかないので、1分1秒も無駄に出来ません。終わりのチャイムが鳴った時点で生徒の集中が切れるので、必ずチャイムが終わるまでに進むべき所まで進めなければなりません。だから、小さな工夫でも必要です。時間を気にしすぎて、説明が早口になってもいけません。大事な事は、重要な所と、それほど重要でない所を区別し、めりはりをつける。そのためには、教材研究をしっかりしておかなければなりません。あとは経験と慣れだと思います。

次に「叱る」についてですが、これも教育実習を終えて課題に感じました。教育実習中、文化祭の準備を手伝ったり、部活に参加するなどして、生徒との距離を縮めることには成功しましたが、チャイムが鳴っても生徒がしゃべっている所を上手く注意し叱る事が出来ませんでした。生徒が悪い事をした時、毅然とした態度で叱るためには、生徒と距離を縮めすぎることはいけない事だと感じました。また、生徒を叱るとき、「叱らなければならない」という義務感を持って叱ることはいけないと思います。なぜ、その行為がいけないのか、それを先生は知っておかなければなりません。生徒が同じ事を繰り返さないためにも

情熱的に冷静に叱らなければならないと思います。生徒と仲良くすることはいい事ですが、メリハリをつける事が大事です。また、平等に接することも大事です。だから、実際に先生になった時、生徒とコミュニケーションをとるときは、自分が先生である事を忘れずに、生徒と距離を一定に保つ事を意識したいと思います。何度も言いますが、仲良くしないという訳ではなく、メリハリを付けることを意識していきたいと思います。生徒に尊敬されるような、こんな大人になりたいと思われるようにするためには、生徒と良い関係を築くことが大事です。それが、授業の時間配分にも繋がると思います。